

# 平成25年度 まちづくり講演会 講演録

講演

## 「防災につながる魅力あるコミュニティづくり」

～体験居住で発見した筑後市の魅力とこれからのまちづくり～

日時：平成25年4月23日(火) 18時30分開会

会場：サザンクス筑後 小ホール

講師：福岡市東区松島校区自治協議会

しば た よし みち  
会長 芝田良倫氏

プロフィール

福岡市東区松島校区自治協議会 会長  
福岡市立松島会館 館長  
福岡市東区自治組織会長会 事務局長



筑後暮らし体験施設「筑恋邸※」での体験居住を通じ、筑後市との交流が生まれる。現在、筑後市への移住(二拠点居住)を検討中。体験居住中にいい意味での「よそ者の目」によって、すでに筑後市に住んでいる人にとっては当たり前となってしまう「筑後市の良い部分」を数多く発見。

現在居住する福岡市東区の松島校区では、自治協議会の会長として、校区内の各種イベントの企画・運営に携わるほか、地域コミュニティの強化にも努めている。

特に、地域コミュニティの強化による防災には力を入れており、平成18年に発生した福岡市東区のゲリラ豪雨による水害被害を教訓とし、防災訓練の実施や、官民共同による防災マップの作成等の実績あり。災害に対応するための平素からのコミュニティの在り方について考え、実践に努めている。

福岡県の実施する防災研修の講師を務めるほか、他の自治組織からの依頼により講演をするなどの活動を行っている。TVや新聞等メディアによる活動の取材実績もあり。



※ ちくご暮らし体験施設「筑恋邸」は、筑後市へ移住を検討している人に市内で一定期間の体験居住を行っていただくための施設です。



### 【芝田氏】

みなさんこんばんは。

今日は私のために5万人の方が集まっていたいてありがとうございます。足元の悪い中をこのサザンクスに来ていただいてありがとうございます。

最初にいつもこの講演に行っても申し上げるんですけど、私は先ほども「先生」と言われたんですけども、全然そんな大それた者ではございません。普通の一般の民間人の者でございます。

ですから、講演を何カ所かで行っていますけれども、決してしゃべりのプロでもございませんし、声だけで言えば司会のお姉さんの方がすばらしい、聞きやすいこえですね。私のはどちらかと言うと籠る声なんです。ですから聞き取りにくいことが多々あると思うんですけど、そこはご勘弁いただきまして。大体いつも私の講演は台本も何もなく、その日の気分次第で進めています。若しくは、来ている人の顔色を見ながら怒られない程度に話しておりますので、その辺もご容赦いただきたいなと思っております。

パッと出てきてですね、いま市内のあちこちに私の写真が出回っておりましたので、どのように思われているのかずっと心配しておりましたけれども、年は今年ちょうど50歳。もうすぐ5月で50歳になるんですよ。先ほどこちらにずらずらと行政区長さんたちがいらっしゃいましたので、何か出にくいなと。立場的には先ほどおられた行政区長さんたちと一緒に、福岡市の場合は自治協議会と言うんですよ。一つの小学校区。だから先ほどいらっしゃった方たちと同じような立場なんです。

ですから、舞台の袖から見て、「私のような若輩者はいないな」と思って心配しておったんですけども、パッと出てくればあまり緊張しないタイプなんです。べらべらとしゃべらせていただければと思います。

私の講演会はちょっと変わっております、あんまりしゃべりはないです。どちらかというとしゃべりは苦手な方なんです。映像を主にしたいなと思っております。その方が寝る人が少ないですし、話の場合は大体半分くらいは途中で寝ますんですよ、映像を見ていただいて。それともう一点、僕の講演は、たとえ寝ていただいても起きたときからまた聞けば分かるようにしていますので、眠たかったら普通に寝ていただいて結構です。

それといまは綺麗にしゃべっていますけれども、かなりの毒舌野郎ですので、途中でかなり頭に来る人がたまにいるんですよ。今まで講演をやった中で約2名ほど、途中で罵声を浴びせて帰られた方がいます。大体、自治会長さんや行政区長さんに多いんですよ。僕はどちらかと

いったら同じ立場の方に辛口ですので。気分が悪くなったら帰っていただいて全然構いませんので、速やかに退場いただいたらいいと思っております。ただ、トイレの場合はまた戻ってきていただいた時点でまたわかるような構成になっておりますので、先ほど申しましたように、寝ても途中で席を立っても映画のようにまた途中からわかるという風になっていきますので、全然お気になさらないようお願いいたします。

今日はズラズラ〜っと見ましたら、筑後で知り合った方も沢山来ていただいておましてありがとうございます。本当にありがたいなと思っております。多分半分くらいは知っているんじゃないかなと思っております。半分はちょっと大げさですね。

あんまり前の方の人は存じあげないですけども、後ろの方の方は知った方が沢山いらっやいまして、今日は行政の方も沢山来てあるというお話ですから非常に楽しみにしております。

出てきて一番最初に皆さんが、「なんでこいつが自治会長をしているのかな」と、特に行政区長さんはどなたも思われるんですよ。郡部に行けば行くほど、最低でも70歳。平均年齢をとると大体78歳くらいの歳が多いんですよ。行政区長さんとか自治会長さんたちとか。私は福岡市の自治協議会会長、要するにこちらでいう行政区長さんの中では一番若い自治会長だと思えますよ。私の次はもう少し上がって56〜57歳くらいになるんですよ。6〜7歳は離れますんで、若気の至りで言いたいことをバンバン言わせてもらおうということで今まで進めてきておりますんで、ぜひ今日はよろしくお願ひしたいと思います。

何故、私がそういう立場になったかということは後で話をさせていただいて、今日は題名が「防災につながる魅力あるコミュニティづくり」という題をいただいておりますので、まずはペラペラしゃべるより、私が居住しております福岡市東区がどういう災害にあったのか、もしくはどういう対策をしたのかをマスメディアが取り上げたものをまとめたものがありますので、まずはそれをご覧いただきたいと思ひます。お願ひします。

(※VTR映像開始)

#### 【ナレーション】

福岡市には、小学校の校区ごとに自治協議会という団体が組織されているが、この松島校区もその一つだ。この校区の住民は約1万7千人、29の町内会がある。2年前に福岡を襲ったゲリラ豪雨。河川の氾濫や床下浸水など大きな被害をもたらした。

ここ松島校区でも地域の半分が床下浸水した。それ以来、防災組織を強化し、去年5月には独自の防災マップも作った。このマップにはゲリラ豪雨の際に水に浸かった宅地や道路、避難場所や土嚢が置かれている場所が書かれている。この日、3日後に迫った防災訓練の打ち合わせが行われていた。

#### 【会議の映像】

「(芝田氏)いま問われているのはコミュニティの在り方なんです。皆さんも今回の震災で、何回もコミュニティという言葉、若しくは自治会という言葉が被災者の人から聞かれたと思ひますけれども、このコミュニティの在り方が今すごく問われています。今回の防災の訓練はコミュニティ訓練ですから…。」

#### 【ナレーション】

今回の防災訓練では新たな試みとして、要援護者の安否確認をするため町内会ごとに地図を作成することにした。更に、被災した町内会を被災しなかった町内会が助けに行けるように校区レベルで情報を共有することも考えている。

しかし、どの程度の個人情報をご校区レベルまで上げるのか、それが問題となった。

【会議の映像】

「独居老人の例えば号室なんかがあると、名前なんかなくたって、あそこは独居老人だということが、まかり間違っただら情報が流れたら犯罪につながる。」

「いや、5階の人が独居なら何号室と言わなくても5階の人に聞けばいいんだから。」

「それがあつために助けてもらえないのではないか。」

【ナレーション】

白熱した議論はしばらく続いた。

【発言：芝田氏】

「やはり自治会だの、町内会だの、核家族化が進んで、なかなか世代間の交流が非常に希薄になっているんですね。その中で、自分たちが人を呼び集めると言う作業が非常に難しいのが、現実なんですね。防災訓練にしても何にしてもですよ。今日言つて明日できないんですね。常日頃から顔見知り、若しくはお互いの情報が、まあ個人情報もありますので、そんなに奥まった情報までは知る余地はないと思いますが、ある程度の常日頃からの行き来、声の掛け合い、そういうものがないといざという時に動けないんですよ。」

【ナレーション】

今週日曜日、松島校区防災訓練の当日。

今回の訓練は地震を想定したもので、各町内会の担当者が、要援護者や一人暮らしの老人宅を訪問し安否を確認することになっている。

ここ大和町町内会では、怪我人も出るという想定だ。

午前9時30分、災害発生。連絡網を使つて、本部から各町内会へ避難開始の指示が出る、はずだったが…、まだ連絡が来ない。

災害発生から既に20分が経過している。

【訓練の様子】

「発生から20分経っています。」「今、〇〇さんから連絡がありました。」

【ナレーション】

途中連絡ミスがあつたらしい。

【訓練の様子】

「地震災害が発生しておりますので、〇〇さんへの連絡をよろしくお願ひいたします。」

【ナレーション】

その後は安否確認の情報が続々と入つてきた。

【訓練の様子】

「大丈夫ですか、ありがとうございました。」

「〇〇さん異常ないそうです。」「はい、ありがとうございました。」

【ナレーション】

怪我人が発生した。

【訓練の様子】

「〇〇さん、〇〇です。至急、救急車の手配をお願いします。」

「救急車、こちらに向かっています。」「患者待機中です。」

「(救急隊員)痛かったら言ってくださいね。」(救助)

【ナレーション】

訓練は終了。その後、反省会が行われた。

【反省会の様子】

「連絡が非常にまずい。」「繋がらないなら意味がない。」

「(芝田氏)青パトでちょっと回らせていただいた中で、住民の方が防災訓練だと知らないなどというのが見て明白な方が沢山いらっしゃるんです。末端の方まで情報が行って、今日防災訓練やっているんだな。自分の家は大丈夫かな、といったちょっとした意識が生まれるか生まれないかが非常に大事なんですね。」

【ナレーション】

様々な課題が見えてきた今回の訓練。だが、こういった活動を積極的に行っている地域コミュニティはまだまだ少ないと言う。

(※VTR映像終了)

はい、いかがでしたか？いま見ていただいたように、筑後というか、九州北部豪雨、皆様も被害に遭われた筑後市ですけど、その2年くらい前にですね、瞬間雨量80ミリというのは、松島校区というのは福岡空港のすぐそばなんです。福岡空港と筥崎宮の間くらいのところなんです。三角州、いわゆるデルタ地帯になっておりまして川に囲まれたところなんです。それで、このときの豪雨で床上、床下浸水。それとご老人の孤立といいますか、助けにそこまで行けない。川が決壊したものですから。良く似ているんですよ、筑後市さんとですね。そんな感じでこのときは大変だったんですよ。何故大変だったかといいますと、私はこの年に初めて今の立場になったんですね。自治協議会会長に。さっき映像を見てお分かりになったと思いますけれども、おじいさんばかりでしょ、周りはほとんど。

それでこの当日も、何故私がこの画面の中でもうっとうしそうな顔をしているかと言いますと、当日は3日くらい続いたんですよ。2日目が私の記憶では一番きつかったんですけども、川が決壊してドバーっと水が溢れ出て、それで水と言うのは細いところに入ったら急に水位を増してバーっていきんですけれども。筑後市のような矢部川周辺のような地域ではございませんので、松島校区は水を逃がすと言う場所を元々もっておりません。ですからもう、あちこちに。それともう一つはですね、都市型の欠点としまして内水氾濫。要するに下水などが流れないんですよ、止まってしまって。そこが筑後市さんとは違うかなと思うんですけど。当時はそういう形で大変なことになっていました。

ところがですね、そのときのその担当地区の自治会長さんですよ。歳にして77~78歳。「バーっ」と流れてきて、皆で一生懸命「何とかせやん、何とかせやん」と言っている中に、ご自身だけ上から下までビシッとレインスーツ、手には傘。それで顎ばかり叩いているんです。「行政は何している」「防災委員長は何している」「自治会は何している」と。といってもその人は自治

会長だったんですけど。まあ、自分で自分のことを言っているわけですけども。とにかく顎ばっかりなんです。働いているのは若手が一生懸命、中学生なんかが出てきて土嚢作ってなんとかしているわけなんですよ。

そのとき私がそばにおいて気づいたのは、まず土嚢袋がない。土嚢袋があっても入れる砂がないんですね。こちらのように畑とか持ち合わせない場所ですから、入れる砂がない。それでどうしたかと言いますと、公園の砂場の砂を入れたわけなんですよ、その時はですね。ところが公園まで遠い。当然、若手が行かなければいけないから。おじいさんたちは行けないわけなんですよ。イライラする気持ちはわかりますけれどもガンガン。これじゃあ助かる人も助からないなと。ということですぐに会議を開きました。その会議というのがワークショップというのがあったんですけど、まあ写真が出て来ると思いますけれども。ワークショップの写真を出してもらえますかね。一端これ、全部集めてですね、文句じゃないけど「どこがいけなかったのか言え」ということで、いまガンガンガン言わせているわけなんです。ここですね。これを見てもわかりますよね。私くらいの歳の人ほとんどいませんでしょう。

とにかくじいさんに文句を言わせてやろうと思って、みんな集めたんですよ。

そしたらガンガン言うわ、言うわで。それなら一度全部書いてみようということで、向こうに書いているわけなんです。それでも一枚の写真が出るわけなんですけれども。



それで、いま御茶ノ水博士のような頭をしたオジサンがいますよね。こいつが悪いやつなんですよ、実は。当時の防災委員長で人のせいにはばかりするんですよ。「これが出来たらん。あれが出来たらん」と。じゃあ、「なんで自分の時にしたらんかったのか」という話になるんですよ。実際に、土嚢を置いている場所もわからない。それで、実は一か所置いている場所があった

んですけれども、カギが閉まっていて、誰がカギを持っているかもわからない。要するに管理が出来ていないんですよ。これじゃいかんということで、みんな一生懸命やっているんですよ。

そこであみだしたのがですね、この皆さんの意見を聞いて作った松島の地図があるんですよ。これがそうなんですけれども、素晴らしいんですよ。これは校区の防災マップ、水害版の分なんです。これ見ていただいてわかると思うんですけれども、色で言うとブルーというんですが、網目になっている所。あそこが浸かったところなんです。



これちょっと引っ張ってもらえます？ ギューっと、地図を大きく。これを見ていただいてわかるように、松島小学校があって避難マーク、土嚢マークと言うのは新たに付けたんですけれども。避難場所がここで言うと松島小学校。その下が、私が館長をしています松島会館。それともう一つ上に上がって松島公民館。全部、水浸かりの中に入っているわけなんです。いかにも、今日は行政の方がいらっしゃいますけれども、いかにも行政らしい考え方なんです。そんなのはどうでもいい、小学校だから避難場所、公民館だから避難場所、その土地の高低差なんて何も考えてないんです。とにかく人が来るところだから避難場所にしておけと。もう、いかにも行政的な作り方なんです。

「これじゃいかん」ということで我々は、こちら(筑後市)と違ってマンションが多いですから、松島会館の横にファミリーマートと書いてあるんですけれども、その横に避難所の赤い点々がありますよね。13番のところ。ここは普通の一般のマンションなんです。それで、マンションの管理組合にお願いして、いざという時はマンションも避難場所にしてくださいという風にしたんです。さっきちょっと戻りますけれども、避難場所の横に若しくは、単体で土曜日の「土」と書いてある。これが、例えば松島公民館でしたら土嚢袋が12個作ったやつがあります。という形をきっちりどこにあるかを、しかも分散して置こうということにしたんですよ。これだけでも一時

しのぎで大分違うだろうと。

それとですね、今日は皆さんのお手元に渡せないのが残念なんですけれども、この紙が特殊な紙ですね、水に濡れても破れないんですね。そういうものにしました。

これを初め作るのに、自分たちの町内会費や自主会費で作りかけたらですね、あまりにもトントン拍子に話が行って、これはいけそうだなと。これに乗った行政としても何とかいけるんじゃないかということで、途中から東区役所が乗かって、おんぶしてきて、「ちょっと加えてもらえませんか」と言ってきた。私ははじめ「いや」と言ったんです。何故ならまた「良いところだけとる」からです。「行政がやりました」と。実は我々がやったんです。「馬鹿言っちゃいかんよ」ということで、一緒にやるなら絶対、後で出ますけれども共助の方がいいのでやったんです。ですから向こうが、今回、区役所が、行政がお金を持ったんですね。かなりすると思いますけれども。

この横なんですけれども、これ半分なんですけれども、もう一つの地図を出してもらえますかね。

これね、マンションに避難場所をお願いしたところを書いているんですよね。それで、下は土囊の場所。これが今まで全くわからなかったんで、きっちり書きましょうと。一つの地図になった防災地図なんです。これ、全国あちこちで結構好評ですね、これを真似して作っている方がいるんですよ。ただ、僕はこの裏の方に力を入れて、これ今のは表なんですけれども、裏にですね、水害時の逃げ方なんか、そういうのを今まで何にも載せていなかったし、水位計というんですか、川の。こちらの人はよくご存知かもしれませんが、福岡市の人はこの水位計の見方なんかはほとんど知らないんです。偉そうに言っている私も知らなかったんです。これはいかんということで、これをまず皆さんに知らせよう。

それと警報ですね。あれもSOSではないけど、いろいろパターンがあって、浸水の時は何かというのを皆さん誰も知らないんですね。それで、それも書きましょうということにしました。それで、この地図の一番大事な点は、ちょっとこれ下に下げてもらえますか。一番上に私の避難場所というのがあると思うんですよ。一番上の方なんですけれども。これはあえて空白にしています。それは何故なら、人間と言うのは自分で探して書かないと覚えないので「自分で書きなさい」ということなんです。地図で探して、そうしないと見ないからですね。自分の場所は自分で探して自分で書いてくださいよと言うことであえて空白にしています。

それで半分横のページがですね、その時の心得とか、逃げ方とか。あんまりみんな文字は読んでないと思いますけれども、下の絵の方はまあ分かりやすいかなという形で付けました。こういう地図とかなったらあんまり絵とかないのパッと見てわかるように使用ということで、こういう風にさせていただきました。

それで、この「地図」を作ったおかげで何が一番良かったかといいますと、先ほど行政を指しておりますけれども、それが捨てたものではなくてですね、この取り組みをしたことによって、なんと区役所が自ら動いたんです。

それは何でかと言いますと、今日の講演会には、筑後市役所の市長を初め沢山きておりますから言いにくいんですが・・・。「ズバツ」といいますけれども、大体行政の方たちは、土日は出たがらないんです。当たり前ですよ、休みだから。なんでそんな日に出る必要があるのかと。みんな言うんですよ。これは日曜日なんですよ。それで今、一生懸命に若手が土囊を前もって

作っておこうと、イザというときのために作っておこうと。こっちから出てくれと言ったわけではないんですよ。校区でやるからと言ったら、「もちろん私たちも手伝います」と。おそらく筑後市の行政の人と同じような心がけだと思いますけれども、東区役所の皆さんは一生懸命がんばってくれたんですね。特筆すべき点は次の写真なんです。

これは、若手は命令されたら出ないと仕方ないから嫌々でているかもわかりませんよね。この真ん中に白いポロシャツのこの人ですね、この人が実は当時の東区長なんです。区長自ら、こちら(筑後市)で言うなら市長にあたるような人ですよ、まあ言えば。区長自ら自分も出るということで、この姿に心を打たれた人は多分多いんですよ。じゃあ、当然自分達も出ないかん、ということで。この辺は消防でしょう、それでこっちの方に警察もいるんです。とにかく凄い人手で8000体作ったんですね、このとき。これが今、テレビなんかで言われている「共助」。お互いに助けてやってある。

当然、区長自ら土日返上で来られているわけなんですよ。マツダサトルさんという区長。今は天下りでどこかにいると思いますけれども、その方ががんばっていただいたと、ということなんです。

そういった点で、防災というのは町民だけが、住民だけが、若しくは行政だけがしたらいいというものではなくて、一緒になってやらないとダメだということなんです。何か悪いやつの写真をもう一個出しておいて欲しかったですね。御茶ノ水博士の写真をもう一回出してもらえますか。似ているでしょう、お茶の水博士に。私が冗談で「悪いやつ、悪いやつ」と言っていますが、そんなにむちゃくちゃ悪い人ではないんですよ。この時には悪かったんです。今はすごくいい人なんです。

それで、これを見ていただいたらわかるように、大体こういう防災の会議といったらですね、前列くらいで市内の人は来ないんですよ。このときは校区の人がほとんど一生懸命、やっぱり大変なことになったと。みんなで作り上げたというのが大きなポイントです。もう、御茶ノ水さんはいいですよ。

それでですね、今のが私どもが東区でやってきたあれ(取組)なんですけれども。

まあ、同じようなことが起きていますよね。ちょっと振り返っておきましょうか。ここ、筑後市の災害の時の、この3番目ですね。皆さんも記憶に新しいでしょうね、広域公園のところですね。久しぶりに見るんじゃないですか、もしかして。たまには思い出しておかないとですね。これは「恋ぼたる」ですよ、私は後でまた話をしますけど。すいませんね、前半はまじめな話をしておきますから、後半はくだけますけれども。私は「恋ぼたる」が大好きなんです。このときは、もういっぱい浸かっていますよね。冷蔵庫も使えない。もう一枚いいですか、これはここまで水に浸かっていたんでしょうね。この写真は水が引いた後なんでしょうね。ここは駐車場のところなんでしょうね、今は全然こんなにはなっていませんけれども。もう一枚くらい出ますか？

ああ、これはよく倒れなかったですね。ここには長年、人がおらんかったんでしょうかね。まあ、これが倒れたらよっぽどなことなんだと思いますけれども、すごいですね。この辺はきっと切れているんでしょうね。これが、私が大好きな楠の樹のところなんでしょう。そうですね、この辺が後で根こそぎ見えていたと思うんですけれども。もう一枚くらい思い出して行ってみましょうか、全部見たら時間がありませんけれども。

これはちょっと私はどの辺か知りませんが、分かりにくい地域は飛ばしてもらえますか

ね。これはちょっと地域はわかりませんね。これもどこかわかりませんが大変なことになっていますね。こんな状態になっていたということですね。思い出しました？今となつては全然そんなことはないからですね。(東区と)良く似たことになっているんですよ。

これはもったいないですね、ベントか何かですね。この人は置いて行ったんですね、たぶん動かなかつたんでしょう。まあ、車より命の方が大事でしょうから、これはもう仕方ないですね。そんなこんなで、船小屋の高架のところ、こちらが「恋ぼたる」の方だと思えますけど、筑後市さんも同じような状況だったんで、大変だったんだろうなという推測が伺えます。では、これは消して別のやつ(写真)にしたいんですけど。いま広域公園のところに人が、あんなに足元くらいまで(水が)上がっていますよね。本当はもっと、このくらいの位置まで上がっていたんでしょうね。

そのことをこっちに来た時に聞いてですね、良く似た感じのご苦労があったんだろうなということをし少し思ったんですね。



それで、さっきの地図もそうですけれども、住民だけが、若しくは行政だけがしても全く意味のない地図ができる。特に行政が作ってくる地図はですね、こんなにつまらないものはないんですよ。要するに前年度と同じようなところにまた、あてはめてくるような感じで、その工夫がないわけですね。当然、次の年になったらかわっているところがいくつかあるわけですよ。なくなっているマンションもあるし。当然、それは調べているんですけど、大体が次年度先送りで、

そんな感じだと思うんですね。

ところがですね、この防災で一番大事なのがですね、ええっと(フォルダの)1番を開けてもらえますかね。

さっきのワークショップなんかあったと思いますけれども、まず一番大事なのは、住民側から行政に「自分たちの地域は、こういう風にしたい」と申し出ない限り、向こうからは動いてくれないんですよ。当然、それはお互い様なんですよ。言って来ないのにこちらから手を差し伸べてはなかなかないと思いますけれども。まずそれをしなければ先に進んでいけないということを、松島はひとつ覚えたわけです。

そんな中ですね、防災のところがあれ出ます？後は画像ですかね？

まず、その時に何が一番大事かという、もう一点、松島の住民は得たんですね、それが何かと申しますと、筑後市の方は隣近所を結構ご存知だと思うんですよ。松島はさっき言いましたようにマンション、もしくは合衆国みたいなものなんですよ。通勤族とか、要するにみんな知らないんですよ。東日本大震災の教訓でよくテレビでおっしゃってたんですよけれども、知っている人がいたら声をかけて当然逃げますけれども、知らない人がいたら当然声をかけにくい。まあ、当たり前のことですよ。ですから筑後のように横の繋がり、横の何左衛門(なんざえもん)さん、こっちの太郎兵衛(たろべえ)さんとか知っている人ならいいんですけど、福岡市はそれが薄いんですよ。これがまず一番ダメだなと。まず皆さん普通に考えてください。例えば川に流されている、何人かですね。あまりいいことではないですけども。それが例えば、隣の辰さんだという人がいたとして、「おーい！」って言われていたらまずは人間、そこに目が行くわけなんですよ、「辰さんが流されかけている」と。そしたら横にいる知らないお婆あさんよりも辰さんを助けるんですね、人間って心理は。誰でもそうなんだと思うんですね。身内だったら当然そっちに行きますよね。松島が当然そこで教訓を得たのが、同じマンションの隣同士なのに知らない、顔を合わせたことも、挨拶を交わしたこともない、これではダメじゃないかということで、今日の本題の一つなんですよけれども、要するに防災とは常日頃から繋がりを持っておかないとなかなか難しいんじゃないかと。防災訓練をするといっても、知らない人同士で来たってなんか気まずくて、消火器の訓練をするにしてもですね。知っているもの同士なら「お前が先にやれ」「俺がやる」という話になるけれども、なかなかまずそのコミュニケーションができない。

これは、ちょっとまず「防災の前にコミュニティを作らなければならない」など私は考えたんですよ。ところが簡単にコミュニティを作ると言っても、今まで知らなかった人と、いきなり今日から「おい今日飲みに行こう」とかそんなの言えるわけがないんですよ。飲まない人なら行けないし。ましてや、お父さんもお母さんも知っているけど子供さんは知らんとかいうことで、なかなか繋がりが無いというのが大体世間一般なんです。そうすると我々が、地域のボランティアが、何かその手段を作らなければならない、そう考えたわけです。たまたまその私が考えているときに、例の痛ましい東日本大震災がやってきたんです。皆さんがご存知のように、もう忘れ去られるようになっていきますけれども、絶対忘れてはいけないことだと私は思っていますけれども。たまたまその時にお知り合いになった外国の方が結構有名な方で、「その熱い気持ちはわかる。では一緒に」ということで、当時名文句になりましたけれども「友達作戦」ですね。それを民間版でやろうじゃないかと。普通の校区じゃあ考えられないと思いますけれども、アメリカ領事館がですね手を組んでやろうという、普通の校区では考えられないですね。筑後市の人口は4万

9千どしこですね。さっき出ましたでしょ松島、私が代表している校区は、あの時点で1万7千人くらいでしたけど、いまは1万8千人を越えています。世帯数にして8千3百世帯。筑後市の半分くらいは私の住んでいるところにあるんですよ。かと言っても、国とか県とかのレベルで言ったら、小さなもんですよ。ところが、その領事館、若しくは私たちの目の付け所が良かったのは、防災というのはそこから作っていかないと上から降りてきても防災にならないということに気付いたんです。下から作らないと繋がりませんよと、いうことに気付いたんです。じゃあどういう風にして人を集めるかという、もう企画と運営、これだけしかないんです。ここにたまたま若い自分が会長になったんだから「やってみよう」ということで、その領事館を巻き込んでやった取り組みの松島版がありますんでちょっと見ていただきたいと思います。6分ほどのビデオになっていますんで、ぜひ見ていただきたいと思います。

(※VTR映像開始)

【ビデオ再生】 ※内容:「松島校区まつり」の映像

(高島市長)みなさんこんにちは、松島校区のお祭りということでやってまいりましたけれども、実は自分が住んでいる校区も夏祭りがあったんですけれども、それ以外で福岡市内でお祭りに来たのはこれが初めてです。この祭りが唯一でございます…。

(※VTR映像終了)

よくできているでしょう？大体ここで拍手がくるんですよ。  
これ作るのにかなり時間がかかるんですよ。でもこれを作ってよかったと思うのは、町内の人たちがある種のプライドを持つわけなんです。他でも講演会でこれ使うでしょう。そうすると、ここに出てきている人がいっぱいいるわけですね。当然出していいですかと聞いているんですけれども。聞かないで勝手に出している人も沢山いますけれども。自分たちの町はこんな町なんだよとアピールにもなるわけなんです。一つは今見ていただいたように、子供たちがいっぱい出て来る。それに付随して親も引っ張ってくる。親が出てきたら、今度はおじいちゃんおばあちゃんが出て来る。というような形で、みなさん早く知り合いましょうということで、今こうゆう取組を実はしたんですよ。松島校区の児童数は千名です。一つの小学校に千名近いです。厳密に言えば989人とかそんな感じですがね。それだけでもすごく大きい校区だとわかっていただけじゃないかと思うんですけど。千人の子供たちの親が知り合おうと思うのは大変なんです。ですから我々町内、自治会にしてもチャンスを与えてあげようということで今の取組なんです。今日の題はそういうところにミソがあると。防災を考えるには、防災のことよりもコミュニティ、若しくは自治会、隣組そういう人たちのつきあい、何と言いますか、知り合いがないと何をしても防災なんか繋がらないんですよという、実は事例なんですよ。それでですね、筑後はどうなんかなというところを、さっきご紹介いただきましたように、実はありがたいことに、今、常用の「筑恋邸」という体験居住施設があるんですけれども、そこに住まわらせていただいております。そのおかげで沢山筑後の人のお友達が出来てですね、筑

後のコミュニティは今どんな風になっているのかなと凄く、当然このような立場におるわけですから興味が湧くわけですよ。まず、筑後の人ってどんな感覚なのかなということで、いろいろ自分からも試してみようということで、いろんなことをしたんですよ。その時の写真を順番に見せますけど。

まずは、後で話そうと思ったんですけど、今日は2曲ほど歌わせていただく予定だったんですよ。まあ、無理やり歌を聞かせようと思って準備をしていたんですよ。ところが、私は歌を歌うだけでいいんですけども、ギタリストが、名ギタリストがいるんですけども、これが4~5日前に交通事故に遭いまして、指を骨折したんです。まあ、ヒビが入るくらいです。それで弾けないということで、内容をここ2~3日でガラッと作り変えて、昨日も実はほとんど徹夜状態で資料を作ったんですけど、たまたま私が音楽好きで「筑恋邸」です。ライブをやらせていただきました。周りの近所迷惑を考えず、今のところ誰からも文句言われたことはないで大丈夫だと思いますけれども。これも1回だけではなくて、2回、3回とやったんですよ。この2回目をちょっと紹介したいんですけどですね。この2回目のチラシは誰が作ったかという、筑後の人を作ったんです。古賀ちゃんという漫画家に作ってもらったんです。これ上手でしょう。どうせなら筑後の人に作ってもらおうと思って、作ってもらったんです。そしたら調子に乗って、また作らせて欲しいと言うことで3回目も作ったんです。まあ調子に乗ってというか、こちらからお願いしたんですけど。まあ作業員がウロウロしていますけれども。この後ろが「筑恋邸」と言っても知らないと思うんですけど、常用にあるんですよ。故ツカモトカジロウさんという日本で最初の音楽マネージャーの邸宅なんです。それを市に寄贈されて、そこに我々が住んでですね、ちっごの良さを知って、行く末はそこに定住しないといけない。税金を納めろという意見ですね。5万人を目標にしていると市長もこの前おっしゃってありましたので。そういう作戦なんですよ。私はまんまとそこにはまってしまうんですけども。

それでこれがその「筑恋邸」の前でのライブ写真。いま白いシャツ来たこの人が、事故でこないだくたばつとるんですよ、残念なことに。この時にあえて下を向いている姿勢がダメやね、もつと上を向いてないといかんね。私を見てください。ビシッと背筋がなつとるでしょう。こういう姿勢で人には望まないといかんですよ。こんなことしていたらダメですよ。ではよけいなことはどけて、ライブのチラシを出してください。その次のライブのチラシを出してあげてください。これが2回目の駐車場に「筑恋邸」と書いてありますよね。小さいところにですね、「筑恋邸」と書いてあるでしょう。いい名前ですよ、筑後の恋。それでこれを貼って、ライブをこの辺でやっているんですよ。こっちが駐車場なんですよ。この車を止めている所の下は池だったんですよ。池を行政の方が埋めているんですけど。邸宅はこの奥にあるんです。後で写真を見せますけれども。

はい、これがライブ会場ですね。ここが駐車場で、こちらに廃品回収の小屋があるんです。それで私はこの中に暮らしているんですよ。これが7LDKくらいあるんですよ。大きいんです。こんなに沢山の人が…。なんで笑うんですか？このまだこっちにも続いているんですよ。まあ、それは冗談ですけど、それでも30~40人来ていただいているんですよ。

寒かったんですよ、この日。小さなお子様まで来ていただいてね、本当にうれしかったですけれども。こういう活動をしながらかコミュニティを皆さんで持っていたら、また自分自身も持ちたいなと思ったんですよ。それで、そういうことをしていたら今度は筑後の方から「松島と言うところがどんなところか知ってみたい」と。立派な行政マンがいますよね、筑後市。感心しますよ、福岡市の人はそんなことは言わないですよ。「じゃあおいで」ということで、まず松島校区の福祉文化祭、さっきも映像がちょっと出ていましたけれども、ここに来たんですよ。

ポスターを持って。来たらすね我々もうれしいから、九州北部豪雨の被災状況を出してくれと、さっきの写真ですよ。それで復興支援の募金をしますと。させていただけますわ、少ないですけど、少しだけ。そしたら1回ではダメだということで、今度は福祉文化祭のときに「はね丸くん」まで来てくれたんですよ。これはかなりの出張手当が出ているんでしょうね。遠い所に、出ていると思うんですよ。はい、次。多分「はね丸くん」が続きますので。あの、もっと子供たちが喜んでいる写真を、これ、松島の子どもたちですよ。これ松島小学校の体育館なんです。次の写真かなんかが凄い。この人なんかが、まだ行政でいらっしゃるかどうかはわかりませんが、



行政のひとですよ。ちゃんと旗も立ててですね。こういうみかんとかお茶とか持ってきていただいたんですよ。はい、次いきましょう。これ見てください、「はね丸くん」のこの人気。ちょうどクリスマスの時だったんですよ。このお姉さん方は松島の人なんですけど。もうすごい人気やったんです。はいどんどん行きましょう。

それで、それだけではなくてですね、この筑後の人たちが私素晴らしいと思うのは、これちょっと大きくしてもらえませんか。これキャナルシティの中なんです。筑後に暮らす人々と行って、皆さんを紹介して筑後をアピールしているわけなんです。次の写真をお願いします。これに定住促進の方なんかが、これ休みで日曜日ですからね。私が撮っているのは、筑後の情報コーナー。もちろんこれ筑後だけではないんですよ、情報コーナー。ここに書いてありますように広川とか、八女とかも入っているんですけど、そういった中で、ちゃんと筑後市からも来ているわけですね。

筑後で暮らす空き家バンク、これが「筑恋邸」なんです。私この時に行って、私が住んでいましたので、なんかあんまりうれしくない気分なんですよ。自分の家が出ているような感じなんで

しょ。ものすごく気分が悪かったんですよ、この日は。でもまあ仕方ないなと、私以外でも興味がある方がどんどん「筑恋邸」に来ればいいなと思ったんですけれども。こういった地道な行政マンの活動があるというのも、皆さん一つはね。まあ行政からは一銭ももらってないですけども、感心しました。なかなかこんな行政マンはいない。あんまり誉めすぎるとなんかもらっていると思われでもいかんから、まあそんなことはないですけども。なかなかそんな行政マンいないんですよ。

でですね、「はね丸くん」はもういいです。いやと言うくらい私は見ましたから。でもかわいいですからね、これは。では元に戻っていただけますか。今度はこれですね、じゃあそれに応えて私も一肌脱ごうという形で脱ぎましたよ。

はい、これは中村市長ですね。これはどこかと言うと、市役所の中です。会議室ですね。この並んでいるじいちゃんたちは私と同じ立場の東区の、こっちで言うなら常用、尾島といった、さつき順番に紹介されていたような人達ですね。東区の自治会長なんですよ。このときはこちらの豪雨災害を経験してということで、勉強しに来ました。30人くらい連れてですね。私が事務局長をしているもんですから。

これが公園の宿、ここでご飯を食べます。美味しそうに皆食べていますよね。この人は筑後市の役所の人です。この時も金をもらってなかったんじゃないかな、後で請求しておきましょう。確かもらってなかったです。

はい、これは「たけのこ会館」です。このときは蔵数のデイサービスにお邪魔したんです。見てください、この「おはようございます」を。「どことなく春の気配が漂う季節になりました。午後はお雛様。福岡より視察に来られます。」、こんなことは福岡はなかなか書いてくれませんですもんね。特筆すべき点はこれなんですよ、次の写真です。

これですね、先ほど並んでいた。これをこのおばあちゃん達が作ってくれたんですよ。私も一枚いただきました。もう涙がでました。中にはお手が不自由な方がいらっしやった中ですね。私たちが来るというか、こういうこと。これが「ディスイズ筑後」なんです。こういうことをやってくれると言うのはあんまりないんです。福岡市はまずないです、なかなか。「ディスイズ筑後」の一つの例なんです。人の温かさというかですね。もてなす心というか。

「おひさまハウス」、噂によるとこの谷川さんと言う人は、黒木瞳より綺麗だとか、綺麗じゃないとかそういう噂が。このおじいさんは必死に見てますよね。視線が釘付けになってますけれども。どこまでどう思ったか知りませんが、まあ確かに綺麗な方でした。それで、この建物が凄く綺麗だったですね。その後、とび梅会館に行ったんですね。宮原宮司さんが一生懸命この水田天満宮のことを話してありました。

来んでもいいのに私が住んでいる「筑恋邸」にまで来たんですよ。これはお借りしている「筑恋邸」の中なんですよ。これだけ集まるとむさ苦しいですよ。じいちゃんばかり集まると。女っ気が何にもないですもんね、まあ当然ですけど。

このときはお茶をわざわざ、この奥にもう一つ茶室というのがあるんですよ。この茶室が素晴らしいんですよ。もうおじいさんたちは大喜びでした。



それで折角来たから金を落とさないといかんということで、西吉田酒造ですね。一番彼らがもう生き生きとしているときですね。次の写真行ってください、このときはまだわかりませんが、この次の写真。これはちょっと嫌々、中の釜を別に見たくもないのを見ている。このときです、もう我よと言わんばかりに、この人は視線がここにこのまま行っていますね。この人はこのままお金を支払おうかというばかりの感じです。ところが西吉田の人に聞いていただいたらわかると思いますが、かなりこのときお金を落としているんですよ。それで、この人、石川会長さんと言って東区で一番トップの、私たちのトップの人ですね。この人が、ここに「古久」というお酒があるんですよ、釜の。知っている方がいらっしゃるかと思いますが、これをダースで買ったんです。ダースですよ。あんなのどうやって飲むんだろうと思ったんですけど、まあ多分人にやるんでしょうね。お年寄りの独特のあれですよ。人にやりたがるんです。それが凄いいいことなんです。実はそれが防災にもつながるんです。そうやって持っていくことで人とつながるんです。それはもの凄く大事なことなんです。この人は自ら率先してそれをやっていただいております。まあ、みんな酒は好きですからね。

(写真を)一枚一枚閉じるのが大変ですよ。では閉じていただいて。

次はこれを消すのを何とかせやんですよ、パツパツと。次はこれですね、高齢者バスハイク。またこれでもかと言わんばかりに連れてきました。

これは動画なんです。西牟田の「ギャラリーむつこ」という緋のギャラリーなんです。これは初めはバス一台だったんです。これが私のロコミが功を奏しまして、2台になったんです。78名ぐらい来ているんですよ、もう車が通れないくらいごった返しているでしょう。「ギャラリーむつこ」さんですね緋の。いま半分はここでお茶をいただいているわけです。一生懸命案内していただいておりますけれども、言う事を聞きませんもんね、ばあちゃんたちはもう。「こっち、こっ

ち」言っているのに好き勝手してから。

この人なんか、私がカメラを撮っているのに自分の方に、しゃべれないのにね。それでこれは入口のところですね。これいつも僕は何回も聞かれるんですよ、お前「むつこ」さんからなんか貰ってよう？って。一切もらっていませんからね、私は。一切もらっておりません、そういうお付き合いは一切しておりませんから。それだけは前もって言うておきますけれども。これ社会福祉協議会の高齢者バスハイクなんです。今回、筑後市を選ばせていただいたんですね。もう、溢れんばかりの人になっているんですよ。まあ、かなりこのとき売れたんじゃないかなと。また中の映像が早送りで流れますからね。これが「むつこ」さんところの中です。やはりですね、日本の経済の再生はこの人達だとこのとき痛感しました。僕たちは財布一つ開けたら、たばこ一つ買うにしても千円とか500円とか出すでしょう。この人達は違うんです。みんな出すのは1万円しか出さないんですよ。ですから「むつこ」さんはこのとき、2000円のストールを1枚買うと釣りが往生するんですよ、8000円。2000円買ったら8000円返さないといかんのだから。でもそれくらい、お買い物を初めから頭に入れて来ているんです。もう、ごった返しているでしょう。これは水田天満宮ですね。それとここですね、昼食は公園の宿でした。ここで何故、私が怒りながら言っているかとしたら、当初ですね「はいわかりました」と公園の宿の支配人が担当者に電話してきているんです。出発前2〜3日だと思いますが、電話がかかってくるまでね、私が取ったんじゃないんですけど。係員の女性が慌てて電話してきて、何かと思ったら「(担当者)会長大変なことになりました。ひょっとしたら行けないかもしれない」、「(芝田氏)なんで？何か問題がおこったのか」、「(担当者)公園の宿にお食事を頼んだんです」、「(芝田氏)いいじゃないか、我々の東区も頼んでなかなか美味しかったよ。」という話だったんです。

ところで何がダメか。このとき78名くらい行っているんですね。お椀が足りないと言うんです。「公園の宿」でありながらお椀が足らん、なんやそれって。どういうことなんお椀が足らんって。78名分揃わないって。皆さん笑っていますけど、これ大問題なんです。我々若い人はそうでもないんです。例えば、隣同士になった、普段仲が悪いおばあちゃん同士だったとしたら、みんなと違うお椀だったとしたらもう食事は食べない。「なんで私だけこんな」と。中身は一緒なんですけど。同じように豆腐が入っているんですよ。お椀が違くと「あんたの有田じゃん、私の波佐見」だとか。訳の分からないことを言うんですよ。だから絶対揃えとかないといかん。

これはもういかんな〜と、苦肉の策を何とかしてくれと頼んで。お弁当の発泡スチロールのやつがありますよね、その高級なやつ。それを78個全部にしましょうと。なんとかそれで収まりましたよ。それでここが「ディスイズ筑後」の悪いところですね。せめて100は揃えておけよと、せめて。いろいろと後で聞いたら、「会長すみません、いままでそんなに人が来たことがないんです。」それはちょっと違うだろうと、せめて100は、今からどんどん人を呼び込まなければいかんのに、100は揃えておいてくれよということなんですよ。そして余談になりますけれども、その後なんですけど、「恋ぼたる」に行ったんです。当然、そこでもお金を落とさせてもらって。本当は「よらん野」にも行きたかったんですけど、時間が足りなくて「恋ぼたる」に行ったんですよ。そしたら「恋ぼたる」が急に78人も一気に来るとは思っていなかったから、レジのおばちゃんも最初は鼻歌を歌っていたんですけど、買う時はドッと行きますから、追いつかないんですよ。みかんを最初並べていたんですけど、履けてしまって必死なんですよ。また載せて、また載せてというか、200円か300円で安いからみんなお土産でみんなどんどん

買うんですよ。これが「ディスイズ筑後」の悪いところなんですね。もう備えがない。まさかそんなに人が来るとは思ってなかった。ところが実はこれは防災と大きくつながるんですね、備えですね。何かあったときの備え。それは絶えず頭に入れておかなければならない。それが筑後の人のノンビリ感のいいところでありますけれども、何かあったときのまずいところでもあるんですね。

そして、ちょっとプライベートの写真で面白いやつがあるんです。

これ社協の人なんですよ。この人真面目な人でね～、社協の人がここに来て喋ってくれたんですよ。

これは公園の宿のお湯ですね。実はこの写真が松島では大人気なんです。見てくださいこの顔を、もう絶頂期ですね、幸せの。それくらい皆さんお湯を気に入っているんです。だからせめて100は揃えておいてくださいと。何回も言っておきたいんですよ。でないと今からどんどんどんどん人が来た時に100くらいいるでしょう。まあそういうことなんです。



そしてプライベートの写真のところに戻ってほしいんですけども。あんまり時間が無くなってきましたけれども。実はね、ずっとここお休みでしたね、温泉館。12月26日ですね、たまたま私は柳川で川下りを楽しんだんです。これも抽選で当たったんです。それでちょっと先ほどの温泉に寄ってみようと。何故ならパッと見たら、ここに「無料開放中」と、これ有料やったら私は入ってなかったと思うんです。無料開放中とあったんで、そこに入ったんです。そしたらなんと、次の写真ですね、これ誰かわかります？この人、わかりますよね。一緒に湯船に入っていたら「この人」やったんです。こんなところで初めて会ったんですよ、風呂やで。これ不思議なものでしょう。初めは「どこのおっさんかな。」と思ったら、後で見たら「市長」ですよ。私は初めて市長とここで会ったんです。次の写真です。市長と会ったと思って普通にしとつたら、そこは何かつ

ながっているんでしょうね。これは市長の甥っ子なんですよ、この人は。この人は甥っ子なんですよ。私が県で講演をしたときに「中村です」と言って近寄ってきたんですよ。大体、行政がそう言って近寄って来るときは危ないんですよ。大体何かあるんです。ちょっと引き目にしておいたら「筑後で活躍されているそうですね」と言うんですね。「なんで知っているか」と言ったら、「実は私の叔父は中村市長なんです。」って。これ本当なんです。そうですね、これ甥っ子さんですよ。家も隣なんです、今は違いますよ。でも実家は市長の家の隣なんです。県のそこそこのポジションにいらっしやいまして。

これは私、今年の初詣はどこにも行っておりません、ここしか。ここどこかわかりますよね。水田天満宮ですよ。わざわざ福岡からここまで、いっぱいあるんですよ福岡にも。櫛田もあれば近くは八幡宮もあるし。でもわざわざここに来たんですよ。でも、見てくださいこの列を「恋の国ちくご」ですよ。いまから大ブレイクしますから。では次に行きましょう。

これを見てください。これは「筑恋邸」から見た朝焼けです。きれいでしょ？「ハ〜っ」って皆さんが住んでいるところでしょう、これは。「ハ〜っ」じゃない、皆さんが住んでいるところでしょう、いいですか。もう一つ見せてください。これがうちのマンション、東区の。汚いでしょ、この雲が。同じ朝焼けなのに汚いんですよ、雲が。同じカメラで撮っているんですよ、さっきのは。同じカメラで。これスモッグがあるから汚いんですよ。これだけ違うんですよ。

今度はこれですよ、これ皆さんわかりますか、これは？これ「つくし」ですよ。これ「筑恋邸」です。菜の花が咲いているんですよ、スイセン。これを私が来た初日の日になると、この行政の人が準備しているんですよ。「ディスプレイ筑後」の今度は誉めるところです。いいところですよ。何故なら「もてなしの気持ち」。涙が出ました私は、素晴らしいでしょう？これだけ取るのもちょっと時間がかかりますよ、これ。まあ、暇だったのかもしれないけれども。そういうことはないと思います。行政の仕事もしながらこれをやっている。

そしたらその後、歓迎会をするって「和泉屋さん」というところのお好み焼き、この後、天ぷらが来るんですけども。こういった「もてなしの心」がディスプレイ。

たまには新幹線できたらどうかと思って。福岡人からするとですよ、一番ここは行政の方も考えていただきたいんですけどネックなんです。高いんですよ。交通費が高いんですよ。いま2枚切符ということで往復で3千円ちょっとであるんですけどね。普通、片道だけなら2280円くらいするんですよ。片道なら。25分で着くのになんて高いから、いま定住がちょっと留まっているのはこのせいも一つあるんですよ。JRの社長が来ていたらよかったですけれども、これがちょっと改善されたら船小屋駅が栄えるんですよ。いまから私も一生懸命これ交渉にあたらうと思ってますけれども。私ごときが交渉してもどうなるかはわかりませんが。

私初めて「つばめ」に乗ったんですよ。そしたらね、ちょっとサービスしておきましょうか、これを見てください。高島市長はさっき夏祭りに来ていましたけど、わざわざこの小さな松島校区に講演会に来たんですよ。そのとき私がちょっとリップサービスで。「いまから筑後が凄いですよ、中村市長に会ってみませんか？」という話をポロツとしたんですよ。これは今ここで話せないの、後で中村市長ゆっくり話そうと思いますから、はいこれは消してください。本当に話したいことが正直沢山ありますから。

これはアスタラピスタ。レジで並んでいたんですよ、レジの女の人がじろじろ私の顔を見るんですよ。おかしいな、知り合いじゃなかったと思ったのになんでかな、と。それでレジが終わってここ

で袋に入れますよね。パッと見たらこんなところに顔がでているじゃないですか。「あれっ」と今日のことですよね。もう往生しました。

そしたらある日ですね、警察も来たんです。なんでかなと、来たんじゃないで呼んだんです。ちょっと薄暗いですがけれども明け方やったんですよね。バーンと音がしたんです。これは誰かが侵入したと、7LDKなんですね。端から端まで見られないんです。そして警察に来てもらって、絶対誰かいると。すると屋根のすみから全部見てもらったんですけど。「ディスプレイ築後」のいいところ、もう5人も来てくれて。もう屋根裏から下まで全部探す。早く言うたらいいのに「芝田さん、これはタヌキの仕業だと思います」と。「早く言え」と、それなら。ところがちゃんとこうやって来てくれた、この「おもてなし」の心。

このミニカーは素晴らしいですよ。もっとお見せたいものがあるんですけど。(映像展開を)早くしてもらえますかね、次にいきたいので。この後、市長とゆっくり話をしようと思いますけど。矢部川は桜ですからもういいです。

ここだけ最後に私が言うておきましょう。27日もうすぐですね、九州芸文館。というか私が宣伝するのもちょっとおかしな話ですが、凄く期待しているんですよ、福岡人の一人としては、この芸文館に。まだ皆さんも見られていない、また私も中を詳しく見られませんが素晴らしいですよ、この九州芸文館。これを県が3日間くらいどうだかこうだか言っているみたいですが、県やらヘチマやらではないんです、筑後にある以上は筑後の皆さんの物です。皆さんでここを素晴らしいものにしてもらいたいなと思っています。私も是非ここでライブしたいなと思っています。そのときは皆さん是非来ていただきたいなと思っています。



ということで、筑后市もいいところがいっぱいあるんですけども、さっき言ったマイナス面と、お椀の100個にこだわるわけではないですけども、いまから筑後というのは凄い所になる予感が私はしています。いまの芸文館もそうですし、恋の国。そして私が一番復興していただきたいのが、いま出てきましたけれども船小屋温泉。私、毎朝起きたら鉱泉水を飲むんですよ。これが凄くいいんです。それで、地元の人に、鉱泉水でご飯を炊いたおにぎりを食べたことがあるかと聞いたら、「いや、ない」、「なんで、そんなにうまいんですか?」って。まあ、やっている方はいらっしゃるかもしれませんが、騙されたと思ってやってください。めっちゃめっちゃうまいですから。めっちゃめっちゃうまいですよ。塩パラパラくらいいいです。もう、餅もちしていますから、鉱泉水おにぎり。もう、誰もしなかったらそれを商売にしようかと私思っていますから。本当にそれがうまい、ぜひやってください。

そういった感じで、私が皆さんとお付き合いをしたこの筑後の1か月間、1か月ちょっとですけど。それを最後にまとめたものを皆さんに見ていただいて私の講演を終わらせていただきたいと思っています。8分くらいございます。いろんな方がでてきます、筑後の方。それでお別れにしたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

(※VTR映像開始)

【芝田氏作成した筑後市の映像VTR(芝田氏の歌唱が挿入歌)】

(※VTR映像終了)

【司会】

芝田様、本日はどうもありがとうございました。

【芝田氏】

ちょっと今、自分で作ったんですけども胸が詰まって、もう言葉にならないですね。皆さん本当にありがとうございました。

【司会】

ここでせつかくの機会ですので、会場の皆様よりご質問等ございましたら、お受けしたいと思います。よろしいですか？

それではこれをもちまして芝田様の講演会を終わらせていただきます。どうぞ今一度大きな拍手をお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。